

本気の力！

日頃からのこども女性目線で
誰もが「たすかる活動」を

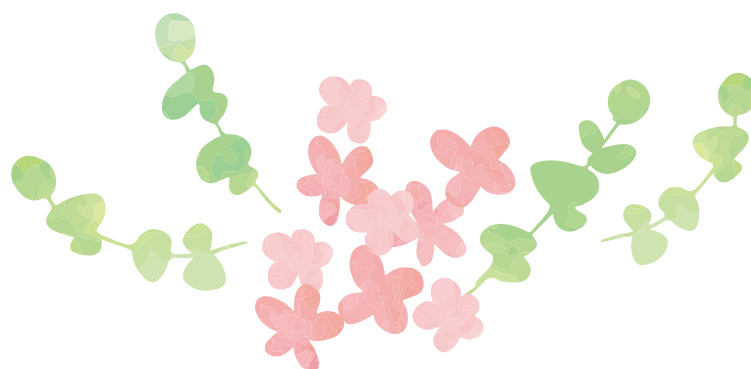


女性のエンパワメントで高める

「地域の防災力リーダー育成事業プログラム」

2025年 事業報告書

一般社団法人 こども女性ネット東海





もくじ

1. はじめに
 2. 私たちの活動
 3. とらえた課題
 4. プログラムの目指す姿
 5. プログラムの内容
 - 5-1 めざすリーダー像、プログラムの全体像
 - 5-2 キックオフフォーラム
 - 5-3 講師プロフィール
 - 5-4 養成講座
 - 第1クール
 - 第2クール
 - 5-5 修了生名簿
 - 5-6 大規模被災地視察
 - 第1クール
 - 第2クール
 - 5-7 ステップアップ研修
 - 5-8 地域防災グランプリ
 - 5-9 ジャパン女性防災リーダーサミット
 - 5-10 伴走支援
 6. プログラムの成果
 - 6-1 修了生の意識変化
 - 6-2 行政・他機関との連携
 - 6-3 能登半島被災地支援
 - 6-4 修了生の活動紹介
 7. 今後に向けて
 8. あとがき
- 

1. はじめに

東日本大震災や熊本地震の避難所での幼い子どもを連れた女性や妊婦、そして当の子ども達のつらそうに我慢している姿。片や熊本の無認可保育所やまなみ子ども園で見た、発災2日目の子ども達の笑顔。

この笑顔を守るには自分たちで任意の避難所を作ることが必要と「たすかる活動=任意の避難所を自分たちで準備する たすける活動=被災地支援」を2本の柱に一般社団法人子ども女性ネット東海を立ち上げました。

そして2022年9月から2025年2月まで、公益財団法人地域創造基金さなぶりより助成を受け、専門家による講座と被災地視察を行い、女性防災リーダーを60名育成しました。2024年の能登半島地震発災後は、そのリーダーたちが、募金活動を行い交代で能登半島に21回も支援に行き、その力を高めていきました。

公設の避難所では様々な方が避難してきます。その時に避難所運営の訓練を受けた女性がいて、女性目線で男性と協力しながら避難所を運営することで、様々な困難を抱えた方への支援ができると思います。

これから、この女性防災リーダーたちが、地域で災害が起きた時に連携をとりあい、力を発揮してくれることは間違いがないと確信しています。

2025年2月28日

一般社団法人子ども女性ネット東海 代表理事 秋山則子



2. 私たちの活動

2016年4月14日21時26分 マグニチュード6.5 最大震度7（益城町）、
2016年4月16日1時25分 マグニチュード7.3 最大震度：7（益城町・西原村）、
熊本でまさかの連続地震が発災しました。

一般社団法人子ども女性ネット東海執行理事藤岡喜美子が、熊本子ども女性ネットの設立を支援し、愛知でネットワークをつくり、寄付を集めたり、セミナーや勉強会を開催しました。そこで、私たちが学んだことは「誰一人取り残さないためには、日頃の活動とゆるやかなネットワークが大切である」ことです。これが活動の始まりです。



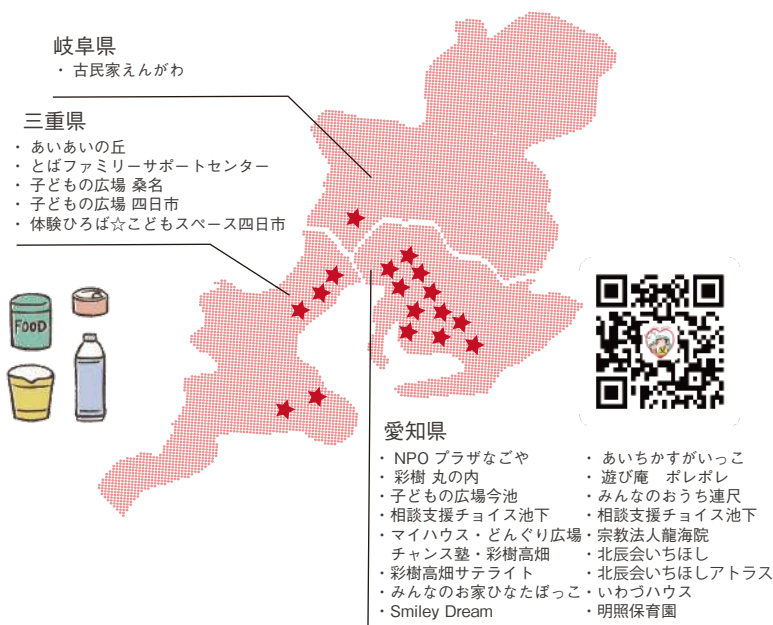
ふたつの基軸事業

女性防災リーダー養成事業

任意の小規模避難所

ネットワークづくり

- 中学校区にひとつ、妊婦・乳幼児・子ども・女性が安心できる避難所ができるように支援します。
- 災害発災後、在宅避難、任意の避難所に救援物資が届く仕組みをつくりします。
- 子どもや女性の安心をつくることのできる助産師、社会的保育士、看護師等専門家のネットワークをつくりします。
- 地域の防災力を高める女性リーダーを養成します。
- 弱い立場のかたの声を聴き、政府・行政、企業に提言します。
- 日頃からの備えの大切さと日頃の活動の大切さを啓発していきます。



Our Vision

子どもと女性が日頃から災害への備えを主体的行うことで地域の防災活動が変革されており、避難所や仮設住宅の生活において子どもや女性の権利が尊重され、男性目線だけでなく、子どもと女性目線を加えることで、誰一人取り残すことのない運営がなされ、多様な主体者が復旧・復興過程においても、希望をもち生きていける地域づくりを行っている。

Our Mission

平時も災害時も、子どもと女性の権利が保障され、子どもと女性の主体的な参画と多様で多彩な主体者による連携・協力により、新たな地域のコミュニティを醸成し、誰一人取り残さない社会をつくる。

Our Activities

緊急時・災害時「辛い」「助けて」と言い出しにくい人、妊婦・乳幼児・子ども・女性の声を聴き、日頃より防災・減災の活動等「たすかる」活動を行います。また、被災地も含め「たすける」活動を行います。私たちの活動は、被災地外の災害NPO等によるレスキュー的な活動ではなく、日頃からNPO等や専門家がつながり、質の高い活動を行い、災害発災後も、できるだけ早く日常に戻すための活動です。そして子どもと女性が主体的に地域づくり、まちづくりを行っていくことを応援します。

3. とらえた社会課題

自然災害大国でありながら、150年ほとんど変わらない日本の災害対応。被災者の多くは体育館などでの生活を余儀なくされ、劣悪な環境で避難生活をおくります。そのために災害関連死は増えています。

なぜでしょう。それは平時の社会システムと災害発災後の社会システムが切り離されているからです。災害発災後の対策は、まさに昭和より前の時代です。近年、政府・行政は行政改革により職員の数も減少し、行政サービスは民間委託の潮流にて小さな政府となっています。自主防災組織などは高齢化や自治会・町内会等の加入率の減少という課題を抱えています。

この政府・行政の限界、自主防災組織の限界があるにもかかわらず、政府・行政への期待、避難所運営マニュアルなどには「住民による自主運営」という言葉がちりばめられています。今こそ、対症療法ではなく、活力ある「ひと」の力で、日本の防災・減災の仕組みを根本的に見直すべき時です。

また、日本は男女が、互いにその人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指していますがいまだ課題は多く、特に災害発災後は、まだまだ男性中心の社会であり、平常時における社会の課題が一層顕著になって現れています。

さらに2023年4月に子ども基本法が施行されました。ところが被災地では小学校の体育館が避難所となり、能登半島地震では地震と大雨の二度の被害によりグラウンドには仮設が建設されています。子どもは「おりこうさん」に毎日静かに学校生活をおくっているそうです。そもそも子どもの権利を保障するとは「こどもの声を聴く」ことからです。子どもは、そばにいる大人の不安を感じ取り、甘えることもできず、子どもにとって指定避難所は「我慢をする」場です。救援物資で音がでるおもちゃが届き、そのおもちゃで遊ぶと「うるさい!」と怒鳴られます。静かに過ごしたい高齢者もみえます。体育館等は地震から身を守るうえでは「安全」な場所かもしれませんが、子どもが「安心」な場ではありません。

そのような状況を打破するために、期待されるのが女性防災リーダーです。

4. プログラムの目指す姿

ビジョン

子どもと女性が日頃から災害への備えを主体的行うことで地域の防災活動が変革されており、避難所や仮設住宅の生活において子どもや女性の権利が尊重されて、男性目線だけでなく、子どもと女性目線を加えることで、誰一人取り残すことのない運営がなされ、多様な主体者が復旧・復興過程においても、希望をもち生きていける地域づくりを行っている。

長期成果1

女性が支援される側にとどまることなく主体者となり、近助、共助が重要であることを深く理解し、平常時の備えだけでなく、避難所や仮設住宅等での生活、復旧・復興過程等においてリーダーとして責任ある行動がとれるようになっている。

長期成果2

子どもと女性が平常時の備えだけでなく、避難所や仮設住宅等での生活、復旧・復興過程等において、主体的に行動している。

長期成果3

平常時だけでなく、災害時も子どもと女性の生きる権利と参加する権利が保障されている。

長期成果4

地縁系の組織（自主防災組織等）が慣例にとらわれず、社会の変化に即し、緊急時、災害時に、一人ひとり寄り添った活動ができている。

長期成果5

行政は自らの限界をしり、子どもと女性の参画を積極的に行い、平常時も災害時も NPO 等の適切な役割分担にて連携協力している。

5. プログラムの内容

5-1 めざす女性リーダー像とプログラムの全体像

女性リーダーの発掘・育成はとても難しいことです。CWN Tが育成する女性防災リーダーとはモチベーション高くまわりに影響をあたえて全体の力を発揮できるようなリーダー、そしてもう一つのイメージが、数人ですが、仲間とともに、自分サイズ、自分のペースで、しっかりと目標にむかっていく組織のリーダーやそれをコアで支える「ひと」を想定しています。日本では女性が活動をするための取り巻く環境は、介護、子育て、そして仕事との両立など課題が多い状況です。だからこそ、おれないで目標にむかうことができ、他の人と比較するのではなく、自分のペースで、自律して活動できるマインドの醸成をサポートします。

女性の課題を解決する、女性のニーズにこたえるために女性防災リーダーが必要であると提唱しているわけではありません。自主防災組織等のトップに女性をとという短絡的なことを言っているのではありません。自律した女性による、小さな組織でも平面的でなく、重層的にゆるやかにつながっていくことで、おおきな力となるとともに、誰に対しても自ずと配慮することが普通になり、「誰一人取り残さない災害対応」を目指すことができるはずです。

●受講希望者全員と面談を行い、その後受講決定を出しました。

これまでの防災・減災の活動の有無ではなく、自分のために知識の習得のみを目的とするのではなく、本プロジェクトの目標を説明し、地域で本気で活動をしたいという受講生の発掘を行いました。

●カリキュラム検討委員会を開催し、カリキュラムについてメイン講師が意見交換しました。単なる防災・減災の知識だけでなく、仲間をつくるために、リーダーシップとチーム力、広い視野をもてるように、大きな政府から小さな政府へという社会システムの潮流や、地縁的組織の現状と課題、ボランティアからNPOへ、多様な主体者と連携し活動を実践するための基礎理解ができるような内容としました。

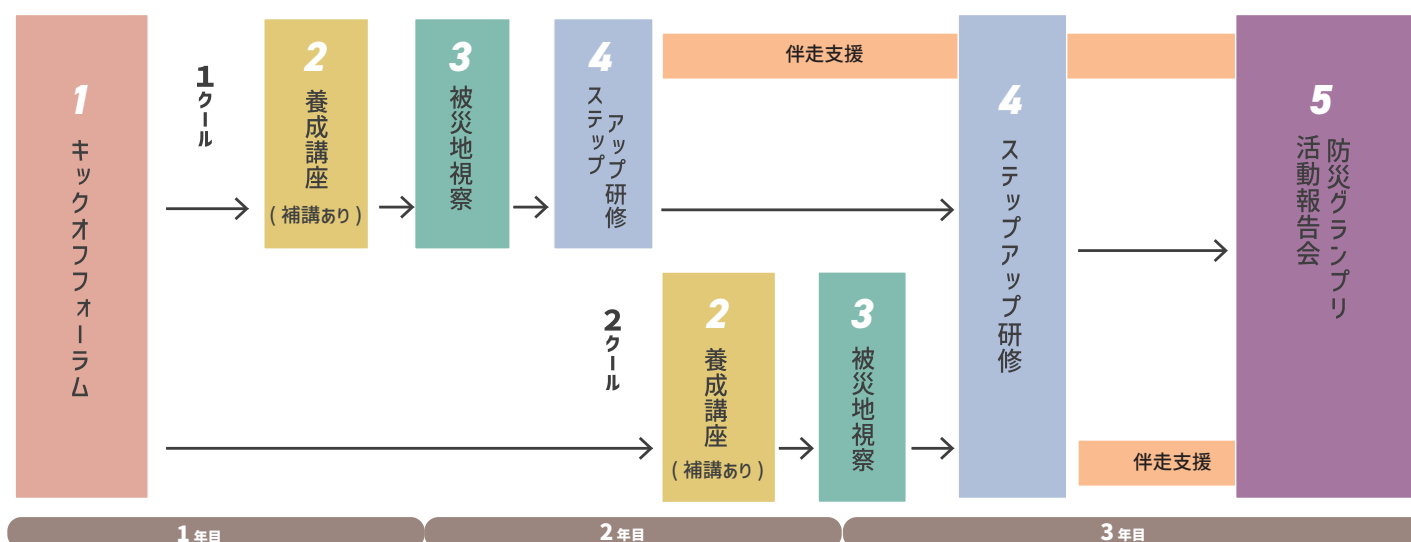
●こどもと女性目線の防災・減災の活動の研究と実践をしてみえる先生から理論と現場の課題、どのような活動を被災地でおこなってきたかのお話を頂きました。

●電気、水道を使えない状態での宿泊研修を行いました。

●著名な講師を招くだけでは人材養成はできません。だれが講座運営を行うかが重要であり、講座運営の「軸」とおすことが重要であり、やる気を引き出すために必要な、自律、目標、自らの成長の3つの要素を意識した講座運営を行いました。

●参加費 10,000 円、名古屋までの交通費は自己負担

プログラムの全体像



5-2 キックオフフォーラム

日時：2023年1月14日（土）

場所：名古屋市中区役所ホール

参加者：115名

子ども 女性 が主体となり地域とのつながりで災害発生後の命を救おう！

本気の力!! 日頃より**子ども・女性**目線で誰もが「たすかる活動」を

女性のエンパワメントで高める
～地域の防災力リーダー育成事業～

キックオフフォーラム

参加費 無料

日程 **2023年1月14日 12:30～16:00**

会場 **中区役所ホール**（名古屋市中区栄4丁目1番8号）

登壇者 **田村太郎**、**五十嵐ゆかり**、**白川由利枝**、**藤岡喜美子**

対象 **市民、NPO関係者、企業関係者、議員、自治体職員等**
どなたでもご参加いただけます。

お申込み（締切2023年1月10日（火））
子ども女性ネット東海または
このコードよりお申込みください。

お問合せ
一般社団法人 子ども女性ネット東海
TEL: 052-919-0250 FAX: 052-919-0255



中京テレビで放送



NHK で放送

女性の力防災に生かす

女性や子どもの視点で防災を啓発する一般社団法人「子ども女性ネット東海」が名古屋市中区役所ホールで、南海トラフ地震で津波被害が大きいとされる名古屋、豊橋、三重県伊勢市と七市と連携し、地域防災で中核を担う防災リーダーを養成する。男性が携わることが多い避難所の運営役も担えるようにする。（出口有紀）

名古屋の社団法人7市と連携 リーダー養成 参加募集

女性を対象に、三年で計五十人を養成。障害者や高齢者への対応、避難所運営に携わる住民らが力を出せるチームをつくる方法など。自主防災組織の担当者との連携方法などを助言。執行理事の藤岡喜美子さん（左）は「地域で仲間ができて、子どもを支援する研究者が講師となり、東日本大震災などの被災地も訪問する。修もあるが子育て中の女性も参加できる」。

受講生は各地域で防災に携わる活動もする。子ども女性ネット東海が、行政や民間の団体と連携し、避難所運営の担当者や住民らと連携し、チームをつくる方法など。自主防災組織の担当者との連携方法などを助言。執行理事の藤岡喜美子さん（左）は「地域で仲間ができて、子どもを支援する研究者が講師となり、東日本大震災などの被災地も訪問する。修もあるが子育て中の女性も参加できる」。

生理用品不足や授乳 避難所の運営に課題

2011年の東日本大震災、16年の熊本地震などでは、避難所で生理用品や紙おむつが不足したり、授乳や着替え場所が少なかったりした。避難所の運営を担うことが多い地区役員の男性らが要望に気づきにくいことが一因とされ、防災に男女共同参画の視点を入れる取り組みを進める内閣府は昨年3月、女性が力を発揮するためのノウハウ・活動事例集をつくった。

地域には、炊き出しなどに男女両方が関わるルールを定めたりする工夫を紹介。行政には、都道府県や市区町村で地域防災計画を策定する「防災会議」の委員に積極的に女性を登用することを勧める。

岐阜県と共同で地域防災の担い手を育成する岐阜大の小山真紀准教授（地域防災学）は「避難所を過こしやすいには女性の視点も欠かせない。性別で役割を固定せず、リーダー養成は女性と男性が一緒に取り組むべきだ」と提言する。

区役所ホールで無料のフォーラムがあり、申し込みは10日まで、二月からの講座は計七日間、締め切りは一月三十一日まで、面接して受講者を決める。参加費一万円（子ども女性ネット東海）で検定。

2023年1月5日中日新聞掲載
休眠預金を活用し、
女性防災リーダー育成事業を
始動することを告知して
いただいた。

5-3 講師プロフィール

田村 太郎

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事、復興庁復興推進参与

力強さや忍耐力が強調されがちな災害時対応では、「辛いこと」「助けが欲しいこと」を言い出しにくい状況となります。

充実した講義とステップアップ研修から受講生のみなさんは、女性とこども目線の防災とは女性やこどものための防災ではなく、誰もが安心して避難生活を送ることができる地域、誰も辛い思いをしないまちづくりを実現するためのとりくみであると気づいたはずです。防災グランプリでの発表では、そのための具体的な一歩を踏み出す様子も伺うことができました。

女性とこども目線での新しい防災が、災害時だけでなく、日頃から誰も取り残されることのない社会につながることを期待しています。



講師陣紹介 (五十音順)

青山 幸久

愛知県 防災安全局
防災部 防災危機管理課
危機管理・国民保護グループ
課長補佐 (班長)



五十嵐 ゆかり

聖路加国際大学大学院
看護学研究科
ウィメンズヘルス・助産学 教授



今石 佳太

兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科客員研究員
元兵庫県芦屋市市長室長
前熊本県益城町危機管理監
Disaster Manager Advanced
救急救命士 防災士



小川 雄二

桜花学園大学副学長
名古屋短期大学教授
名古屋短期大学付属幼稚園長



黒木 邦弘

熊本学園大学社会福祉学部教授



小山 真紀

岐阜大学
流域圏科学研究センター准教授



塩崎 美穂

東洋英和女学院大学
人間科学部 保育こども学科



白川 由利枝

公益財団法人
地域創造基金さなぶり副理事長



只野 英昭

大川伝承の会



中西 里映子

認定特定非営利活動法人
アレルギー支援ネットワーク
常務理事
防災士



藤野 龍夫

「災害復旧支援ボランティアチームふじさん」代表
「小牧市災害ボランティアネットの会」、「一寸奉仕」、「南相馬市ボランティア活動センター」メンバー



薬師寺 道代

医師・医学博士
元参議院議員



山口 智雄

豊橋市岩田校区自主防災組織
会長



吉村 静代

益城だいすきプロジェクト「きままに」代表理事
防災士



秋山 則子

一般社団法人こども女性ネット東海
代表理事
NPO法人三重みなみ子どもネットワーク理事長
NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター副理事長
「チャイルドラインMIEネットワーク」常任理事



富田 正美

一般社団法人こども女性ネット東海
代表理事
ハーレーサンタ CLUBNAGOYA
代表



藤岡 喜美子

公益社団法人日本サードセクター
経営者協会執行理事
一般社団法人こども女性ネット東海
執行理事



5-4 女性防災リーダー養成講座

 養成講座 第1クール 2023年2月18日(土)～3月25日(土)

申し込み51名、受講生決定34名、修了生33名

女性防災リーダー養成講座 第1クールカリキュラム

			講師名	所属等	備考
2023/2/18 (土)	9:00~10:30	①災害多発時代に求められる地域防災	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所	公開
	10:40~12:10	②誰ひとり取り残さない災害対応に向けて	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所	公開
	13:00~14:30	③避難所生活からのコミュニティの形成	古村静代	益城人好きプロジェクト	公開
	14:40~16:10	④助かった命を守るために過去の大規模災害から学ぶ	藤岡喜美子	一般社団法人ダイバーシティ研究所	公開
2023/2/25 (土)	9:00~10:30	⑤リーダーシップとマネジメント、チーム構築	藤岡喜美子	一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事	
	10:40~12:10	⑥こどもの権利	秋山則子	一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事	
	13:00~14:30	⑦普通の食事が食べられない等アレルギー対策等	小川雄二	一般社団法人こども女性ネット東海 代表理事	
	14:40~16:10	⑧障害者、高齢者、外国人等配慮が必要な人へのケア	薬師寺道代	(認定特非)アレルギー支援ネットワーク	
2023/3/4 (土)	9:00~10:30	⑨地域ニーズをふまえた被災者支援のあり方	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所	
	10:40~12:10	⑩災害ケースマネジメントの考え方と実務	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所	
	13:00~14:30	⑪被災地支援からみえてきたもの	藤野龍夫	チームふじさん	
	14:40~16:10	⑫我がまちを知る、我がまちの課題を考えるWS	山口智雄	豊橋市岩田校区自主防災組織会長	
2023/3/11 (土)	9:00~10:30	⑬女性へのケア 1	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ウイメンズヘルス・助産学 教授	
	10:40~12:10	⑭女性へのケア 2	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ウイメンズヘルス・助産学 教授	
	13:00~14:30	⑮こども(幼児・児童)へのケア 1	塩崎美穂	東洋英和女学院大学 こども学科	
	14:40~16:10	⑯こども(幼児・児童)へのケア 2	塩崎美穂	東洋英和女学院大学 こども学科	
2023/3/18 (土)	9:00~10:00	⑰これまでの振り返り	藤岡喜美子	一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事	
	10:00~12:00	⑱避難所の実態と日頃の備え	藤野龍夫	チームふじさん	
	13:00~16:00	⑲熊本学園の避難所運営の取り組み～配慮が必要な方へのケアを考える～	黒木邦弘	熊本学園大学	
2023/3/19 (日)	9:00~12:00	⑳HUGを使った避難所開設のシミュレーション	黒木邦弘	熊本学園大学	
	13:00~15:00		黒木邦弘	熊本学園大学	
2023/3/25 (土)	9:00~10:30	㉑研修生による地域での活動の一步を発表	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所	
	10:40~12:10	㉒アドバイザーからのコメント、意見交換	塩崎美穂	東洋英和女学院大学 こども学科	
	13:00~15:00	交流会			

講座の様子



五十嵐ゆかりさんの講座



ワーク中の受講生



宿泊研修でポリブクロッキング



プランの発表

受講生のアンケートから

- ・意識がとても高く、実際に活躍されている方達と、沢山お会いできました。
- ・毎回、新しい発見があり、自分事として何ができるか考えたい。
- ・一部では女性の参画が必要であることの意識の高まりはありますが、男性のみならずまだ女性の内でも意識の高まりが感じられないところがあります。災害・防災の平時の備えから意識の高まりにつなげていきたい。
- ・講座最終日に会場で、今後のビジョンを発表しました。自分の強みである、多様性の視点を含めた、日本人、健常者側への配慮が必要な人々に対する理解促進の活動、外国人市民への防災、減災教育の実施などを行います。



第1クール修了式=中日新聞

5-5 第1クール修了生名簿 (1名非公開)

氏 名	居 住 地	資 格	職 業・勤務先等
明石 須美子	多気郡多気町	保育士、防災士	
荒木 歩	岡崎市	防災士	「守ろう子どもと赤ちゃん」代表
石井 直子	春日井市	防災士、食品衛生責任者、作業療法士	family はじめのいっば、NPO 法人みんなの未来いい教室
磯貝 明美	西尾市		
大場 直子	田原市	防災士、幼稚園教諭、小学校教諭	スマイルの会代表
大須賀 由美子	多気郡多気町	防災士、社会教育士	根っこラボ・だんだんキッチン代表
岡田 雅美	名古屋市		名古屋みどり災害ボランティアネットワーク 代表
岡田 美保	松阪市	防災士	
月東 佳寿美	岡崎市		認定 NPO 法人葵風理事長
川崎 良江	名古屋市		
小西 宮子	豊橋市		
小松 恵利子	岡崎市	保育士	一般社団法人こどもと暮らす ii ねっと代表理事
近藤 真理	田原市		女性防災組織役員、災害ボランティアコーディネーター
佐々木 宏子	豊橋市		
柴田 さくら	春日井市		
新谷 琴江	伊勢市	防災士	伊勢市防災コーディネーター副委員長 みえ防災市民会館ブロック長 三重大学防人倶楽部副会長
杉浦 真希子	西尾市	保健師	西尾市子育て支援センター、自主防災役員
瀧澤 隆子	春日井市	調理師、放課後児童支援員	一般社団法人はるたね
田中 容子	小牧市		小牧防災リーダー会書記、こまき防災女子サークル代表
樽見 千春	日進市	調理師、食品衛生責任者	
鳥居 由香里	小牧市	防災士	小牧災害ボランティアネットの会 会長
鳥当 法子	豊橋市	管理栄養士	
中井 恵美	名古屋市		認定 NPO 法人子育て支援の NPO まめっこ理事長
中川 真由美	伊勢市	防災士	明倫まちづくり協議会会長
中川 真弓	伊勢市	防災士、保育士	明倫まちづくり協議会理事
中西 里映子	名古屋市	防災士	認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク常務理事
西山 佐知子	松阪市		
南田 理恵	名古屋市	助産師、看護師	一般社団法人ママズケア代表理事
宮島 伸子	名古屋市	児童支援員	
三輪 宮子	名古屋市	保育士、放課後児童支援員	NPO 法人こどもサポートクラブ東海理事長
山本 有希子	岡崎市		ダウン症児家族交流会 Korin 代表
和出 みゆき	岡崎市	介護福祉士	岡崎市福祉事業団、北部地域包括支援センター

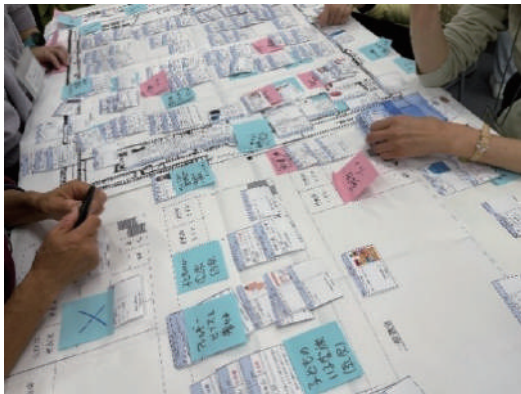
養成講座 第2クール 2023年10月14日(土)～2023年12月2日(土)

申し込み52名、受講決定28名、修了生27名

女性防災リーダー養成講座 第2クールカリキュラム

2023/10/14 (土)	9:30～10:50	災害多発時代に求められる地域防災	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
	11:00～12:20	誰ひとり取り残さない災害対応に向けて	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
	13:20～14:40	地縁的組織の課題と行政・新しいNPOとの連携・協力	藤岡喜美子	一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事
	14:50～16:10	リーダーシップとマネジメント、チーム構築	藤岡喜美子	一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事
2023/10/21 (土)	9:30～10:50	こども女性目線の地域防災がなぜ必要か	小山真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授
	11:00～12:20	地域の防災力向上	小山真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授
	13:20～14:40	女性へのケア①	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ウィメンズヘルス・助産学 教授
	14:50～16:10	女性へのケア②	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ウィメンズヘルス・助産学 教授
2023/10/28 (土)	9:30～10:50	地域ニーズをふまえた被災者支援のあり方	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
	11:00～12:20	災害ケースマネジメントの考え方と実務	田村太郎	一般社団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
	13:20～14:40	こどもの権利、こども(幼児・児童)へのケア①	塩崎美穂	東洋英和女学院大学 人間科学部 准教授
	14:50～16:10	こども(幼児・児童)へのケア②	塩崎美穂	東洋英和女学院大学 人間科学部 准教授
2023/11/4 (土)	9:30～10:50	普通の食事が食べられない等アレルギー対策等	小川雄二	(認定特非)アレルギー支援ネットワーク 理事長
	11:00～12:20	災害時のアレルギー対策	中西里映子	(認定特非)アレルギー支援ネットワーク 理事長
	13:20～14:40	熊本県益城町の取り組み	今石佳太	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所 客員研究員
	14:50～16:10	大コボ被災地から学ぶ	今石佳太	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所 客員研究員
2023/11/18 (土)	9:30～10:50	被災地で見たこと聞いたことから	藤野龍夫	災害復旧支援ボランティアチームふじさん 代表
	11:00～12:20	熊本学園の避難所運営の取り組み～配慮が必要な方へのケアを考える～	黒木邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部 教授
	13:20～14:40		黒木邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部 教授
	14:50～16:10	HUGを使った避難所開設のシミュレーション	黒木邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部 教授
2023/11/19 (日)	9:30～10:50	インクルーシブな避難所の取り組みへ	黒木邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部 教授
	11:00～12:20	障害者、高齢者、外国人等配慮が必要な人へのケア	薬師寺道代	医師・医学博士、元参議院議員、 全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会 副委員長
	13:20～14:40	過去の被災地支援経験からみた日頃からの行政の連携	青山幸久	愛知県防災安全局 防災危機管理課 課長補佐(班長)
	14:50～16:10	現地からの実況中継	只野英昭	大川伝承の会 語り部
2023/12/2 (土)	9:30～10:50	研修生による地域での活動の一步を発表 アドバイザーからのコメント	田村太郎 藤岡喜美子 秋山則子(一般社団法人こども女性ネット東海 代表理事)、富田正美(一般社団法人こども女性ネット東海 代表理事)	
	11:00～12:20			
	12:30～15:00	交流会		

講座の様子



HUG を使った避難所開設のシミュレーション



黒木先生の講義



50人分のアルファ米をつくってみる



宿泊研修 ランタンをもちよりこのあとは暗闇



黒木先生から熊本学園大学の取り組みをお聞きする



薬師寺先生から障がい者のかたの困難をお聞きする

受講生のアンケートから

- ・等身大の実際のお話はとても身近に感じることができました。
- ・女性防災リーダー講座を通して、他地区で活躍されている方々と出会い、つながりはもちろん、多くの学び機会を得て、とても刺激になりました。
- ・学びから活動に移す際、1人では微力なので、受講生で立ち上がったファーストペンギンおかざきに入れて貰えたことは大きく、地域と意識を変えるために、協力して活動していきたいと思います。

5-5 第2クール修了生名簿

氏 名	居 住 地	資 格	職 業・勤務先等
岩崎 笑美	安城市	保育士、児童発達管理責任者	NPO 法人ルリアン放課後デイ
梅村 保代	伊勢市		
浦田 春美	春日井市	看護師	自治会長（2024 年度）
遠藤 幸子	豊田市	看護師	
岡井 一代	三重県多気郡	防災士、保育士	一般社団法人医食同源みえ ここふる・管理者、児童発達支援管理責任者、多気町防災ネットワークグループ 代表・多気町消防団 分団長
岡田 由美江	犬山市		
尾崎 百合江	西尾市		
金子 真由	高浜市		
佐々木千尋	岡崎市	看護師、介護福祉士	子どもお裁縫教室主宰・講師
塩沢 美穂子	岡崎市	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、児童発達支援管理責任者	NPO 法人子どもの発達を支援する会きらら代表理事
島田 亜紀	犬山市	防災士	犬山市議会議員
高木 祐子	西尾市		
高須 ゆき江	西尾市		グッドワーク代表、日本介護美容セラピスト協会 BT セラピスト
田中 香	春日井市	防災士	
千葉 朝子	名古屋	看護師、助産師	
出口 綾	伊勢市		認定 NPO 法人ときわ会 藍ちゃんの家事務局長
服部 直子	春日井市	看護師	医療法人社団喜峰会東海記念病院
服部 ゆかり	高浜市		
古田 めぐみ	瀬戸市		
増田 いづみ	名古屋市		
松浦 慶子	多気郡多気町		三重県議会議員
松元 永己	春日井市		特定非営利活動法人あいちかすがいっこ代表理事、地区の防災会
室田 すみえ	岡崎市		岡崎市職員
森好 佐和子	犬山市	保育士、幼稚園教諭、防災士、食品衛生責任者	特定非営利活動法人にこっと代表理事、犬山市防災会議委員
山本 道代	西尾市		西尾市議会議員
横田 典子	田原市		コープあいち 副理事長
横山 佳織	桑名市		アナウンサー・ラジオパーソナリティー

5－6 大規模被災地の視察

○第1クール 2023年6月11日（日）～6月12日（月）

東日本大震災被災地視察 参加者 関係者含め41名

被災地の女性に災害発災後の避難生活、仮設の生活の様子、その時何を思い何をしたか。その後のコミュニティ形成、地域づくりにおいてどのような活動をしてきたのかお話をいただいた。

被災地の多くの女性が話していた。「災害発災前から、なぜ地域の活動に積極的に参加をしていなかったのかが悔しい」その言葉が受講生の心に響きました。

「今、やらなきゃ、いつやる」「私がやらなきゃ、だれがやる」

<視察先と講師>

・八丸由紀子さん

（一般社団法人美馬森 Japan、宮城県東松島市）東松島の森を馬と共に開拓し、被災地のこどもを牧場に受け入れ、馬とともに心のケアを行った。



・山縣嘉恵さん

（東松島市震災復興伝承館語り部、宮城県東松島市）

東松島市と連携し、震災を語り継いでみえます。

振り返れば、なにも知らなかったと「反省」そして「後悔」みんなで助かりたかった。「気づき」事前にやれることがたくさんあったと。



・荒木裕美さん（石巻市子どもセンターらいつ館長

宮城県石巻市）

こどもの声を聴き、こどもが主体的にアイデアをだし、オープンときには、こどもが「らいつ」の紹介をした。子育て家庭の不安と、震災発災後のつながりの大切さをお話いただいた。



・阿部民子さん（民子の海パック、宮城県本吉郡南三陸町）

今でも海をみるのが怖い。女性の雇用をつくりたいと海産物の加工・販売を始めた。

・内海明美さん（ガレキの中のカフェ、現在はコミュニティ・カフェこもんず、宮城県本吉郡南三陸町）

避難所から仮設へ。仮設は抽選で入居していくので、せっかくのコミュニティがなくなってしまう。瓦礫の中にカフェをつくった。みんなの憩いの場所、働きにいている親が帰ってくるまでのこどもの居場所となった。



・南三陸町語り部バス

戸倉地区—高野会館—防災庁舎—南三陸 311 メモリアル

・只野英昭さん（大川伝承の会宮、城県石巻市）

大川小学校跡地を案内していただく。裏山にこどもが登っていれば助かっていた。

・徳水利枝さん（雄勝ローズファクトリーガーデン、宮城県石巻市）

住んでいた家が流され、実母も亡くした跡地に、母が好きだった花を植えたことがきっかけでガーデンづくりをはじめた。地域再生の要ともなっている。被災者もボランティアとともに「主体者」としてガーデンにかかわることにこだわっている。



○第2クール 2024年10月19日（土）～10月21日（月）

熊本地震被災地視察 参加者 関係者含め32名

10月19日（土）

・震災ミュージアム、旧東海大学阿蘇キャンパス（熊本県阿蘇郡南阿蘇村）

語り部の方のガイドで、施設内見学

・松田亜紀子さん（人吉コミュニティにじのおと代表、熊本県人吉市）

こどもや女性に必要なものは自分たちで集めようと SNS を活用したら、その輪がどんどん広がった。災害発災前の小さな取り組みが、災害発災後そのつながりが広がり、今は、さらに次のステージへと駆け上っている。

郷土の家庭料理 ひまわり亭でお話をお聞きする。

（熊本県人吉市）

「ど根性きじ馬」見学

・球磨村の湯の駅 見学（熊本県球磨郡球磨村）



10月20日（日）防災国体参加

・発表「熊本から能登半島へ」

ジェンダー視点の災害対応の今～地域防災女性リーダーの取り組みから～

・こどもと女性目線の逃げグッズ展示（CWNT）。受講生が交代で展示コーナー担当。



・熊本県民交流館パレアにて熊本地震発災後避難所支援などを実践されたNPOのリーダーのお話しをお聴きした。

吉田 祐一さん（一般社団法人 Arts and Sports for Everyone（通称 ASE）代表、レクレーションボッチャ開発者）

原 建史さん（一般社団法人 夢・理想の里代表）

21日（月）

・熊本学園大学（熊本市中央区大江2丁目5番1号）

黒木邦弘先生のガイドと講座

自主避難所を開設されたときの様子と避難所運営の基本方針と工夫



・山並道代さん（やまなみこども園、熊本県熊本市）

自主避難所を開設されたときの様子と避難所運営の方針と工夫

・益城町役場（熊本県上益城郡益城町）

益城町役場 危機管理課 危機管理係 主事 村上さん

吉村静代さん（益城だいすきプロジェクトきままに代表理事）

本田節さん（有限会社 ひまわり亭代表取締役）

藤井宥貴子（有限会社ミューズプランニング代表取締役）



5-7 受講生が中心となって開催するステップアップ研修

2023 年 4 月より 13 回、修了生のために、ステップアップ研修を開催しました。女性防災リーダー養成講座は女性だけが受講生できますが、ステップアップ研修は地域の男性も女性も、こどもも、外国人も、障がいのある方も、どなたでも参加していただけるようにしました。また、できるだけ開催する基礎自治体とは共催もしくは協力とし、修了生が基礎自治体と継続して連携できるようにしていきました。会場をお借りし、地縁的な組織のかたへの広報などの協力をいただきました。

受講生が地域や行政のかたと連携して防災・減災の活動ができるように、「こどもと女性目線の HUG カート」の作成、「こどもと女性目線の避難所開設訓練」などのノウハウを受講生とともに整理し、受講生が今後も活用していけるようにしました。

- 下記のような目標を設置したプログラム内容としました。
- ・ 修了生が自己研鑽し、また、互いに切磋琢磨する機会をつくる。
 - ・ 地域の自主防災組織等地域との連携していける機会をつくる。
 - ・ 活動する基礎自治体との連携の機会をつくる。

開催したセミナー一覧（）内は受講生の参加者数

2023 年度

月 日	開催地	セミナー内容	参加数
1 月 14 日（土）	名古屋市	キックオフフォーラム	115（18）
4 月 16 日（日）	伊勢市	こどもと女性目線の HUG 演習補講	15（8）
5 月 6 日（土）	豊橋市	こどもと女性目線の HUG 演習補講	13（5）
9 月 2 日（土）	名古屋市	キックオフフォーラム&ステップアップ研修ハイブリッド開催	72（18）
9 月 30 日（土）	犬山市	こどもと女性目線の防災フェスティバル	93（5）
12 月 2 日（土）	名古屋市	こどもと女性が災害時でも安心できる居場所があったら、どんなに心強いでしょう	36（10）
12 月 23 日（土）	岡崎市	誰一人取り残さない災害対応のために	65（15）
1 月 29 日（月）	犬山市	犬山防災人材養成フォーラム	35（4）
2 月 5 日（月）	岡崎市	誰一人取り残さない災害対応のために	111（8）
3 月 16 日（土）	名古屋市	修了式&アクションプラン発表会	30（24）

2024 年度

月 日	開催地	セミナー内容	参加数
4 月 29 日（月祝）	桑名市	あそ防災	98（2）
6 月 22 日（土）	西尾市	避難所体験（こどもと女性目線の HUG 演習）	（11）
8 月 11 日（日）	名古屋市	フォローアップ研修 ハイブリッド	9
9 月 13 日（金）	春日井市	こどもと女性目線の HUG 演習補講	10（7）
9 月 28 日（土）	犬山市	犬山防災人材養成フォーラム	43（9）
10 月 30 日（火）	名古屋市	避難所運営勉強会	28（2）
11 月 2 日（土）	伊勢市	誰一人取り残さない災害対応のために	43（8）
11 月 26 日（火）	岡崎市	誰一人取り残さない災害対応のために～災害ケースマネジメントの学びと実践～	60（8）
12 月 1 日（日）	岡崎市	誰一人取り残さない安心避難所開設訓練～こどもと女性目線で～	65（10）
1 月 11 日（土）	岡崎市主催	災害ケースマネジメント講演会	164（5）
1 月 12 日（日） 13 日（月祝）	大田区	ジャパン女性防災リーダーサミット 2025	370（30）
1 月 26 日（日）	岡崎市	「主役は私たち」こどもと女性目線の避難所運営	103（5）
2 月 7 日（金）	犬山市	災害ケースマネジメント講演会	36（5）
2 月 7 日（金）	春日井市	こどもと女性目線の HUG 演習	35（4）
2 月 8 日（土）	浜松市	知って安心！！いざという時のために災害時のアレルギー対策	44（3）
2 月 9 日（日）	長久手市	こどもと女性目線の HUG 演習	31（1）
2 月 12 日（水）	多気町	災害ケースマネジメント	35（6）
2 月 23 日（日）	豊橋市	災害時に女性が参画しやすい環境を	15（1）

5-8 こどもと女性目線の地域防災グランプリ

①ねらい

災害発生時、行政や外部からの災害 NPO による支援には限界があります。日頃より、男性だけでなく、こどもと女性が主体となり地域とのつながりを強くし、自ら進んで活動し、いざという時に発言力・行動力を発揮できるように「本気の力!! 日頃よりこどもと女性目線で 誰もが『たすかる活動』を」2022年9月より始動しました。本プロジェクトの集大成として、地域防災グランプリを開催しました。また、広く全国からの応募もありました。

こどもと女性目線の地域防災グランプリのねらいは三つです。

- ・修了生や地域の女性防災リーダーが主体となった、地域と連携した活動を共有し、さらなる活動のステップアップにつなげる。
- ・修了生や地域の女性防災リーダー等防災・減災の活動をしている仲間があつまり、ゆるやかに繋がり、いざという時に連携・協力できるようにする。
- ・こどもと女性目線が必要であるとの認識が高まっているが、地域で何を行ってよいかわからないという声がある。こどもと女性目線の地域防災グランプリに多く、こどもと女性目線の活動がエントリーされることで、地域での活動の参考になる楽しく効果的なアイデアが紹介され参考にできる。

会場に訪れた高齢の女性からも「私にもできることがあることがわかった!」という喜びの声をいただきました。



② 応募団体 北は北海道から、南は愛媛県宇和島市から、愛知県を中心に幅広い地域から合計 27 団体の応募がありました。内訳は、愛知県 13、三重県 6、愛媛県 3、岐阜県 2、大阪府 2、北海道 1 でした。このうち、こども女性ネット東海の女性防災リーダー育成事業の修了生がかかわるものは、15 件でした。

③ 内容

日時：2025 年 2 月 24 日（月）祝日 会場：名古屋市中区役所ホール

基調講演 田村太郎氏（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事）

入賞者プレゼン（10 分 × 9 団体）

講演「矢田郷コミュニティセンター避難所の 9 か月」

関軒明宏氏（矢田郷まちづくり協議会事務局長）

トークショー「女性防災リーダーが日本の地域防災を変える」

田村太郎氏氏、鈴木祐司氏、沢田薫氏、松島陽子氏、藤岡喜美子

審査結果発表・授賞式

④ 審査委員

基礎自治体と連携・協力していくために基礎自治体の危機管理担当職員に審査をお願いしました。

一般財団法人ダイバーシティ研究所（田村太郎様） ジャーナリスト（山本恵子様）

愛知県防災安全局防災部災害対策課課長（齊藤裕計様） 犬山市市民部交通防災課（小木曾祐二様）

岡崎市市民安全部防災課次長兼防災課長（小林也寸志様） 春日井市総務部市民安全課課長補佐（後藤邦昌様）

名古屋市防災危機管理局地域防災室地域防災課長（磯貝昌樹様）

西尾市 危機管理局危機管理課課長（片山佳隆様） 碧南市市民協働部防災課課長（生田尚人様）

一般財団法人大阪男女いきいき財団（沢田薫様） 特定非営利活動法人 U.grandma japan（松島陽子様）

⑤ 審査結果

グランプリ

「小規模避難所作りと備えのきっかけ作り」(愛知県岡崎市) 防災ファーストペンギン☆おかざき

準グランプリ

「防災カフェから始まる みんなで地域防災力 UP 大作戦！」(愛知県犬山市) 女性防災リーダー研修修了生：NPO 法人にこっと防災部

「ひとりの百歩より百人の一步で地域防災力向上計画」(岐阜県高山市) TMBJ 高山まち協防災士女子会
みんなの特別賞

ダイバーシティ賞

「子ども食堂でつながる 防災 × アレルギー配慮」(大阪府枚方市) 大橋知子 月ノヒカリ

紗羅餐(さらざん)賞

「平時も発災時も♡ OJ・OB BAR」(愛知県岡崎市) 月東佳寿美・和出みゆき 岡崎ビューティペア
学び舎 mom 未来の防災リーダー賞

「地域と住民の『鋸〜かすがい〜』」(愛知県春日井市) team 春日井

子育て支援賞

「絆を結ぶ遠隔地連携保育支援プロジェクト」(三重県津市) 特定非営利活動法人どんぐりの会
つながるチカラ賞

「みんなで考える！防災 B フェス」(愛知県知多市) I ぎゅっと パパママ学級知多 ～産前産後ケア～
TAGAYASE！賞

「災害時に野菜でほっとできる場づくり畑がつなぐ明日への力」(愛媛県宇和島市) BISAIー FARM



⑥ 協賛企業・個人

一般財団法人ダイバーシティ研究所様、株式会社サラザン様、学び舎 mom 株式会社様、
WOMANET 株式会社様、学校法人安城学園様、
株式会社万協製薬様、株式会社マザーリーフ様、
ジャーナリスト・山本恵子様

マスコミでの紹介

当日夕方メーテレニュースで紹介。その動画が Yahoo! ニュースにも紹介。また翌日、中日新聞にて報道されました。



「こどもと女性目線の地域防災グランプリを終えて」

地域の女性リーダー同士がチームを作り、日常の活動を基に防災への想いを企画力で表した今回の「地域防災グランプリ 2025」は、本当に素晴らしいアイデアがあふれていました。被災をした時に特別なコミュニティが始まるイメージがありますが、日常の生活の延長線上にあり、日常でできないことは有事にはなおできない。被災時もこどもと女性の日常を守り、できるだけ早く日常に戻すための活動を意識し、グランプリに挑んだみなさん。普段の活動で地域課題はしっかりと把握できており、それぞれのスキルを活かした化学反応は今後の防災減災活動に大きな可能性を与えました。被災しても生活は続きます。発表を聞いた方は「この人たちが住んでいるところは何があっても大丈夫な気がする。」と直感的に感じたそうです。

受賞を機に爆上がりした女性リーダーたちのモチベーションを維持し、いざという時に発言力・行動力を発揮できるよう、地域での活動を伴走支援させていただきます。そして、この取り組みを全国に根付かせ、誰一人取り残さない社会の実現を目指しましょう。



櫻井雅美
こども女性ネット東海
プログラムオフィサー

5-9 ジャパン女性防災リーダーサミット2025

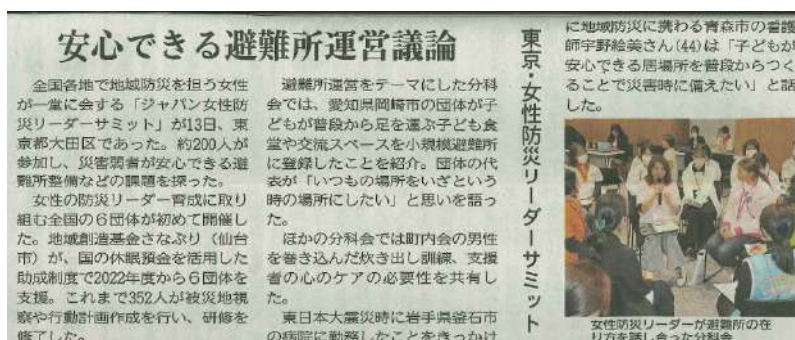
～全国の女性リーダーとの交流・連携で、日本を変えていこう～

【プレサミット】：2025年1月12日（日）18:00～20:00

- ・ 歓談・交流
- ・ 女性防災リーダープレゼンテーション
（各団体から講座修了者1名計6名）

【サミット】：2025年1月13日（月・祝）9:30～15:45

- ・ 基調講演「女性の活躍で誰一人取り残さない防災へ」
登壇者：青野慶久さん（サイボウズ株式会社代表取締役社長）
- ・ 女性防災リーダープレゼンテーション（各団体から講座修了者1名計6名）
- ・ 講演「避難所等での避難生活の質の確保」
登壇者：水野忠幸さん（内閣府政策統括官 防災担当避難生活担当参事官）
- ・ 分科会①地域防災の伸びしろ 女性リーダーの活躍で
 - ②子どもと女性目線で誰一人取り残さない次のステップの安心避難所
 - ③人の暮らしの再生に向けて ケアとレジリエンス



5-10 修了生への伴走支援

講座修了後、受講生を6つのチームにグループ化し、チームへの支援、個人への支援を行いました。

犬山チーム、春日井・小牧チーム、名古屋チーム、岡崎チーム、

三河ベイチーム、三重北チーム

(伴走支援者：秋山則子、藤岡喜美子、猪飼由美子、寺部直子、戸野憲一)

・CWN Tの理事や専門家が受講生の地域での活動について、開催への助言、つながりづくり、ノウハウの提供などを行いました。

・一人ではできないことをチームで助け合って活動できるように、ゆるやかで機能的な重層的なつながりができるように、サポートを行いました。

・災害ケースマネジメントを基礎自治体で実践していくために、調査票の見直しの協議、災害ケースマネジメント実践においてのケース会議、誰が担うかなどの協議を行いました。

・こどもと女性目線の HUG 演習カードの作成を修了生の有志で行い、避難所ではどのような配慮が必要かなどを具体的に話し合いました。

・本プロジェクトの修了生がこどもと女性目線にて、次のステップの地域防災への一翼が担えるように、修了生の得意なことを活かし、互いに協力できるように後方支援を行いました。

犬山チームHUG演習の打ち合わせ



名古屋チーム打ち合わせ



三重チーム打ち合わせ



岡崎チーム打ち合わせ



町内会長に立候補した人が
悩んでいたのをみんなで作戦会議



6. プログラムの成果

地域防災を変えることができる女性防災リーダーの育成が緊要であると考え、プログラムを始動しました。女性が意欲的に活動するための女性を取り巻く環境はまだまだ改善しなければならないことが多い社会です。そのような状況においても受講生自身の地域防災を変えるという意欲が重要であり、受講生の意識変化をとらえることを重視しました。

また一人の力は所詮一人です。受講生の挑戦する勇気と今後のプロジェクト推進のための行動力醸成を目指しています。そこで、受講生が基礎自治体内、基礎自治体を越えた県内、さらには全国とのゆるやかな繋がりがどのようにできていくかを重視し、主観的になりますが、その状況を分析し、受講生が挑戦する勇気と今後のプロジェクト推進のためのプログラムの内容改善や伴走支援の方法などに活用していきます。

さらに地域防災を変えるためには、行政や自主防災組織に女性リーダーが諦めないで積極的にかかわり、これまでの自主防災組織等の関係者とコミュニケーションをとり、信頼を得て活動していくことが求められます。自主防災組織等の男性リーダーや基礎自治体の首長や危機管理課の意識変化なども注視し、関係性づくりに活かしていきます。

6-1 受講生の意識と行動の変化

第1クールの受講生に関しては、短期アウトカム指標において2023年11月と2024年12月に同じ項目でアンケートをとりました。

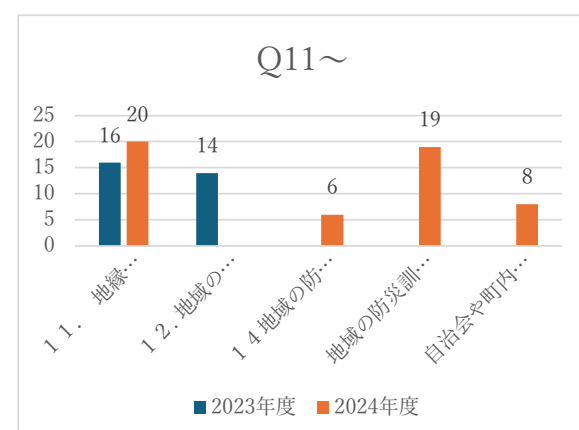
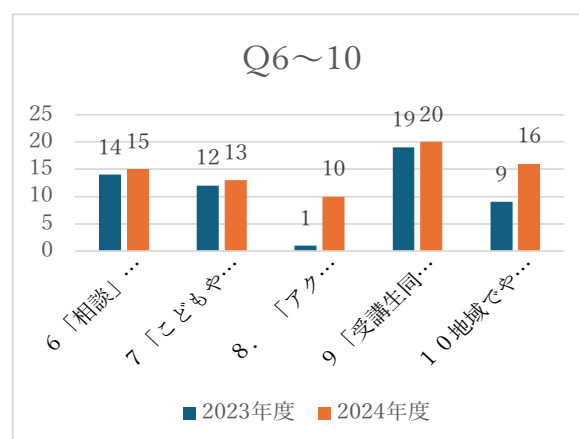
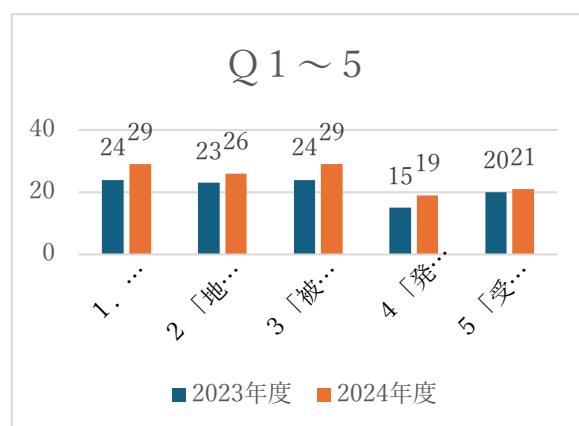
各質問における「はい」の回答者の趨勢です。

特に、「8. ご自身の地域でのアクションプランをつくることができましたか」と「10. ご自身が地域でやりたいことを考え先輩活動者や専門家の助言を受け活動の一步を踏み出すことができますか」の設問に対し、「はい」と答えている受講生の数が増えています。地域で活動するにしても、一人では心細いが地域の受講生が相互乗り入れで互いに協力することで活動の一步を確実に踏み出すことができます。

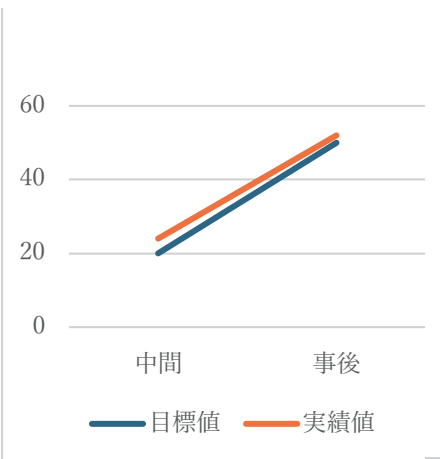
町内会・自治会の会長や防災会議などの委員長や副委員長など役職についた受講生は7名です。

地域防災を変えるには町内会の会長になるしかないと言候補した受講生もいましたが、1年の任期では何もできないことを思い知らされたようです。

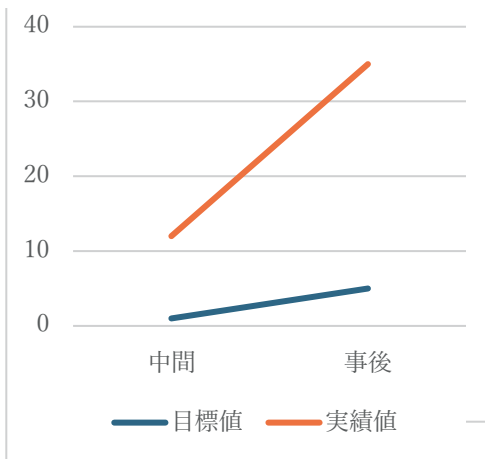
ただし、役員を真摯に務めたことで地域の仲間入り、地域の人の信頼をえることはできたようです。その経験を活かし、つぎの挑戦を考えている受講生もいます。



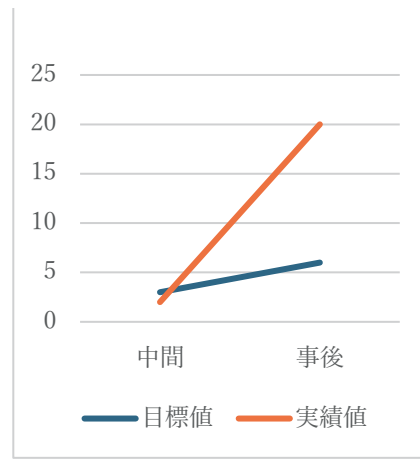
自分もやってみようという意識が醸成された
受講生の数



任意の小規模避難所を開設しようと思う
受講生の数



修了生と自治体が協働で開催した
セミナー数



2022年9月から2025年2月までの間に、女性防災リーダー60名を発掘・育成しました。2024年1月能登半島地震発災後は、その女性防災リーダーが募金活動を行い、必要な救援物資を集め、交代で能登半島に21回も支援に行き、被災者の安心をつくるというその力を高めていきました。

指定避難所には様々な方が避難してきます。その時に避難所運営の訓練を受けた女性がいいて、女性目線で男性と協力しながら避難所を運営することで、様々な困難を抱えた方への支援ができると思います。

これから、この女性防災リーダーたちが、地域で災害が起きた時に連携をとりあい、力を発揮してくれることは間違いがないと確信しています。



寺部直子
一般社団法人こども女性ネット東海理事
伴走支援者

6-2 行政、他団体との連携

2023年12月23日（土）岡崎市

災害時等における被災者の避難生活への支援生活再建及び被災地の復旧復興に係る連携・協力に関する協定書を締結しました。協定に基づき、岡崎市とは災害ケースマネジメントとは何か、災害ケースマネジメントの調査票の検討、災害ケースマネジメントのワーク、子育て家庭の車中泊訓練などを協働で行っています。



2024年6月27日（木）犬山市



災害時等における被災者の避難生活への支援、生活再建及び被災地の復旧復興に係る連携・協力に関する協定書を締結しました

愛知県7/2(火) 近郊版



<https://www.city.inuyama.aichi.jp/photonews/1010960/1011004.html>

©. 中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています。

2025年1月15日（水） 碧南市

災害時における被災者の避難生活への支援、自立と生活再建の支援及び被災地の復旧復興に係る連携・協力等に関する協定 を締結しました。

https://www.city.hekinan.lg.jp/city_info/photo_news/2025/22512.html



2025年2月3日（月） 春日井市

災害時等における被災者の避難生活への支援、生活再建及び被災地の復旧復興に係る連携・協力に関する協定 を締結しました。

<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisei/1028300/1028411/1036348/index.html>



2024年7月18日（木） しずおか子育て防災ネットワーク

災害時における相互協力に関する協定書 を締結しました。

<https://shizuokakosodatebo.wixsite.com/network>



災害発災後も被災地においてこどもの権利を保障するために、相互協力を約束しました。本プロジェクトでは、アレルギーのこどものための活動をしている受講生が5人いるので、静岡のこども分野の暖帯と勉強会を開催し、今後の連携について意見交換しました。

6-3 能登半島地震被災地支援

①修了生が被災地支援に行くという勇気ある行動の動機は大きく二つあります。

- ・被災者のためになにかしたい。
- ・被災地にいき、今活動をして、わが地域で災害が発災したときに自身の地域の人の命を守りたい。役に立ちたい。

②被災地支援にいったことで、自主防災組織や町内会のかたから被災地の様子やこどもと女性目線の支援活動とはどのようなことを行うのか等の問い合わせを受け、地域とのつながりのきっかけとなりました。

2024年1月4日 緊急会議を開催しました。

藤岡と寺部、修了生のうち1名以外は被災地支援の経験がありませんでした。受講生の「いきたい」というニーズに応え、被災地支援を企画しました。

氷見市に提案し、宿泊場所を確保しました。道路の安全などは現地で活動しているNPOと条項交換・連携し準備をしました。七尾市の避難所運営をしている人が旧知の仲であり、その関係で避難所運営のお手伝いに行くことにしました。

CWNTの被災地支援基本方針は「こどもと女性目線」で一人ひとりに寄り添い、お聴きし、必要な時に必要なものを届ける。心のケアをして安全だけでなく、安心をできるだけ早く日常へ救援物資は事前に必要なものをお聞きし届けました。



ポーチセットをつくり、お渡ししながらお話しをお聞きする
ちょっとお姉さんセット、若い人のセット



先発隊	1月10日(水)～12日(金)	七尾市
第2隊	1月21日(日)～23日(火)	七尾市
第3隊	2月18日(日)～21日(水)	七尾市、志賀町、珠洲市
第4隊	2月23日(金)～25日(日)	七尾市、珠洲市
第5隊	3月11日(月)～14日(木)	七尾市、志賀町、珠洲市、輪島
第6隊	3月17日(日)～19日(火)	七尾市、珠洲市
第7隊	3月26日(火)～28日(木)	七尾市、珠洲市
第8隊	4月7日(日)～9日(火)	七尾市、珠洲市
第9隊	4月18日(木)～22日(月)	七尾市、珠洲市、輪島市
第10隊	4月26日(金)～28日(日)	七尾市、輪島市
第11隊	5月4日(土)～5日(日)	七尾市
第12隊	5月9日(木)～13日(月)	七尾市
第13隊	6月13日(木)～16日(日)	七尾市、輪島市
第14隊	7月12日(金)～14日(日)	七尾市、珠洲市
第15隊	8月5日(月)～7日(木)	珠洲市
第16隊	8月17日(土)～18日(日)	七尾市
第17隊	9月28日(土)～30日(月)	七尾市、珠洲市、輪島市
第18隊	10月23日(水)～24日(木)	七尾市、珠洲市、輪島市
第19隊	11月22日(金)～23日(土)	七尾市、珠洲市、輪島市
第20隊	11月29日(金)～30日(土)	七尾市、珠洲市、輪島市
第21隊	12月21日(土)～22日(日)	七尾市、珠洲市、輪島市



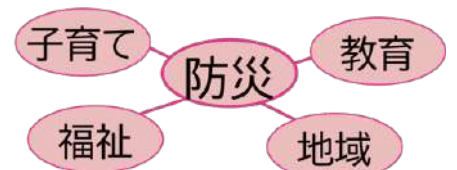
6-4 修了生による地域の活動 〈防災ファーストペンギン☆おかざき〉



次世代を生きるこどもたちと共に
「こどもと女性」視点の防災に
先陣切って飛び込んでいく！

防災ファーストペンギン☆おかざきメンバー 能登地震被災地支援経験メンバー	 荒木歩 守ろう子どもと赤ちゃん代表・防災士	 山本有希子 ダウン症児家族交流会 Korin 代表	 佐々木千尋 子どもおさいほう教室講師 看護師、介護福祉士	 塩沢美穂子 NPO 法人子どもの発達を支援する会きらら代表理事
 小松恵利子 東日本大震災被災経験あり (一社) こどもと暮らし ii ネット代表理事・保育士	 和出みゆき 包括支援センター勤務	 月東佳寿美 認定 NPO 法人葵風理事長	 岩崎笑美 NPO 法人ルリアン放課後デイ児童発達管理責任者・保育士	 青山晃子 子育て支援団体 みんなの wa 主宰

防災ファーストペンギン☆おかざきは女性防災リーダー養成講座を受講した9名を中心として結成。普段はさまざまな分野で専門知識と経験をもつメンバーであり子育て真っ最中のメンバーも多くいます。講座で学んだ「女性目線の大切さ」「こどもの権利の重要性」に共感し私達が日常で取り組んでいることの延長に防災があることを改めて実感しています。



防災を単独に考えることなく、平時の活動ジャンル × 防災を意識し「ちょこっと防災」を啓発しています。メンバーそれぞれに専門分野と経験値や人脈があることで、日々、各々の活動をしなが、それぞれの活動にお互いでサポートに入り、自分たちのやれることをその時やれる人がやれる分だけ取り組み、お互いの長所を活かし、助け合いながら活動しています。

岡崎市の防災課、ふくし相談課、こども育成課など平時の活動からのつながりを大切にしています。岡崎市内の民生委員、民生児童委員、総代をはじめ、防災課、ふくし相談課などからもお声がけがあり、各地でご要望に合わせた講座やこども女性目線の防災グッズ展示や体験などをさせていただける機会が増えてきました。



防災啓発の展示・体験防災クイズ



段ボールを使った寝床スペースづくり



マンホールトイレ体験

防災ファーストペンギン☆おかざきのメンバーは、こども、障害児、高齢者などの事業所の運営者や活動団体、民生委員などで、日頃から地域で、様々な立場でこどもや女性に関わる仕事をしてきた人達です。これまでの活動に防災の視点を強化したいと思って、研修を受けてくれました。それぞれの拠点では任意の小規模避難所の開設に備えて備蓄の準備、啓発活動を進めています。また地域の防災活動イベント等には協力しあって参加しています。行政担当課も防災だけでなく、こども、女性、高齢者、障害者等様々な部署とのつながりを作っています。防災をキーワードとして、地域とのつながりを、優しく、強く、作り上げていく彼女たちを応援していきたいと思っています。



猪飼由美子
こども女性ネット東海理事
伴走支援者

〈犬山チーム〉

犬山チームメンバー 全員能登地震被災地支援経験メンバー



岡田由美江

女性防災リーダー養成講座
第2クール修了
CAP（子どもへの暴力防止活動）
コミュニティナース



島田亜紀

女性防災リーダー養成講座
第2クール修了
防災士
犬山市議会議員 1期
松下ヨガ学院指導員
あいち防災リーダー会犬山 所属



三輪 宮子

こども女性ネット東海エリアマネージャー
女性防災リーダー養成講座
第1クール修了
NPO 動法人こどもサポートクラブ東海 理事長
みんなのお家ひなたっこ小規模自主避難所主宰
保育士、幼稚園教諭、
食品衛生管理者、放課後児童支援員



森好佐和子

こども女性ネット東海エリアマネージャー
女性防災リーダー養成講座
第2クール修了
特定非営利活動法人にこっと代表理事
犬山市協働プラザ 運営委員
防災士、保育士、幼稚園教諭
犬山市防災会議委員

日頃はひとりひとりがそれぞれの場所で専門的な活動をしながら緩やかに繋がり、必要に応じて協力して活動することが出来ています。NPO や議員というそれぞれに置かれた立場も活かしながら、行政と相互理解を深め、日頃から情報交換し連携・協力しています。

活動内容

・2024.2.17 防災人材育成講座参画

熊本大学の黒木邦弘氏を講師に招きオンラインによる講話の後、こども女性目線の HUG（避難所運営ゲーム）を行ないました。



・2024.6.27 災害協定締結調印式出席

「災害時における被災者の避難生活への支援、生活再建及び被災地の復旧復興に係る連携・協力の関する協定」を締結。平時の人材育成や啓発、災害時の情報共有や支援に関する内容で、犬山チームも同席し、市長はじめ担当課と意見交換を行いました。



・2024.9.13 愛知北エフエム放送キックアップ出演

28 日に開催される防災人材育成講座の告知の為、担当課職員とともに三輪、岡田が出演し、市民へ直接呼びかけをしました。



・2024.9.28 防災人材育成講座参画

市と協力して、前半は大阪公立大学の菅野拓氏と、内閣府避難生活担当者による講演、後半はこども女性ネット東海藤岡氏の講演後に、こども女性目線の HUG(避難所運営ゲーム)を行ないました。参加者の中には高校生もあり、多様な意見が反映される演習となりました



・2024.11.10 犬山市総合防災訓練出展

市開催の総合防災訓練に犬山チームとしてブース出展し、「こどもと女性目線でやってみよう！」をテーマに、妊婦体験、女性目線の防災グッズの展示、こども向けに、ぼうさい NURIE を行いました。男性だけでなく、学生などの若者が妊婦体験をするなど、予想以上の広がりを感じられました。



・2025.2.7 災害ケースマネジメント学びと実践参画

一般財団法人ダイバーシティ研究所の田村太郎氏を講師に招き、防災関係者だけでなく市内の事業者、教育機関、行政、社協、医療従事者等幅広い分野から参加者が集まり、災害ケースマネジメントについて知る機会となりました。

参加者からは今後実践につながる次の展開を期待する声が上がりました。



こどもや女性がキーワードで、多様なメンバーが集まり地域軸で結成された犬山チーム。今回の女性防災リーダー育成事業を受講し、「点は線」になり、メンバー共通のキーワードに防災が加わり、これからは個々の活動にもフィードバックできる学びがあったことと思います。お互いの活動を組み合わせることでシナジーを生み出し、前向きな行政職員も巻き込んで地域軸でのトップランナーになり、更に近隣地域・自治体へと「面」を広げていってほしいです。



戸野憲一
こども女性ネット東海理事
伴走支援者

こどもも女性もみんな安心 ぼうさい〈チーム春日井〉

～寄り添い つながる 助け合える街へ～

～すでにある地域資源を探し、協働へ～

「きっかけなんて何でもいい」

2015 年、私は初めて「子どもを守れるママになろう（防災ママカフェ）」という講座に参加しました。それは大変衝撃的でした。なぜなら、出産しママになった私たちに、「いざという時、私がこの子を守らないといけないんだ」という現実を突きつけられたからです。

しかし、地域の防災はどうだったか？ 定年退職をした男性が中心、開催される時間も子育て層には優しくない時間帯だったり…子を育てる親向けの場所というものはほとんどなかったように思います。そこでまずはすでに活動している防災の先駆者の方に学ばせていただくことを選びました。

春日井チームメンバー

松元永己、石井直子（防災士）、服部直子、瀧澤隆子、田中香（防災士）

浦田春美、野村実里（救急救命士・防災士）

子育て支援はまちづくり

それぞれが、それぞれのエリアやジャンルで活動をしているところがチーム春日井の強みです。

そして、それぞれが住民自治の重要視を意識し地区の活動を大切にしています。市との繋がりができ、災害関連の団体、消防団、社協、医療、介護、福祉、療育、自治会・町内会の地縁組織、子ども会、小中高の PTA、学童、さらには企業や NPO 法人、多文化共生、地域サロン、子ども食堂、アレルギー関連団体、本当に細かいパイプがあちこちに張り巡っています。

私たちの使命と目指すところ

2011 年の東日本大震災以降、2016 年には熊本、2018 年には北海道、2021 年には福島県で頻発する自然災害に対し、私たち子育て世代の中にも「いよいよ南海トラフも現実」に」という危機感を持つ親が現れてきています。子を持つ親である私たちは、いざ発災した時には一日でも早く我が子が平時に戻れるよう努める義務があります。

そこで、私たちは活動拠点である春日井市でのネットワーク強化を決め、春日井市の「安全安心なまちづくり」の指針に沿い、地元団体との連携の強化を行います。

また、2025 年は春日井市に起震車が寄贈されます。今回の起震車寄贈は「自助」を促すツールとして考えられています。この機会を活用し、女性防災リーダーとしての役割を発信します。今年度締結した春日井市との協定には“こどもや女性など被災者へのきめ細かな義援物資等の配付”も謳われました。

今後の地域の防災力の向上と、地域とのかかわりの重要性を発信しながら活動していきたいと思っています。

活動写真



2023年10月 地域交流イベント秋フェス
アレルギーの視点も取り入れた防災啓発ブース



2023年10月春日井市赤十字奉仕団地区研修にて
『食物アレルギーに配慮した炊き出しと基礎知識』



2024年12月第12回ママの文化祭®
プライベート空間を作る段ボールハウス



2024年7月名古屋工業大学
北川教授の開発されたインスタントハウス



2023年6月市内小学校PTA セミナー
トイレ対策や防災グッズを掲示した防災講座



2024年10月 地域交流イベント秋フェス
かまどベンチを使っのワークショップ



2025年2月
ボニターさんとこどもと女性目線のHUG 演習



2024年11月ボニターさん、災害ボランティア
会長と HUG 演習



2024年12月ママの文化祭® 防災ブース 実
行委員と市内の災害関連団体と企業との協働



2025年2月高座地区コミュニティ推進協議会
地域防災部 防災講座会『非常持ち出し品
を見直そう』



2025年2月高座地区コミュニティ推進協議会
地域防災部 防災講座会『背負って走れる
防災リュックの詰め方』



2025年3月災害時の避難所生活の支援や早期の生活再建などでの連携・協力を
春日井市とこども女性ネット東海と協定を締結

〈多気町防災ネットワークグループ〉

1. 多気町防災ネットワークグループ設立まで

2024年7月7日 補講として、こどもと女性目線のHUG演習を企画運営しました。地域で活動してみえる方男女問わずご参加いただきました。会場は子ども第三の居場所「ここふる」です。「ここで、こどもや女性に安心な避難所の開設準備をしていきたいね」とも意見交換しました。



多気町チームメンバー



活動内容

セミナーの開催

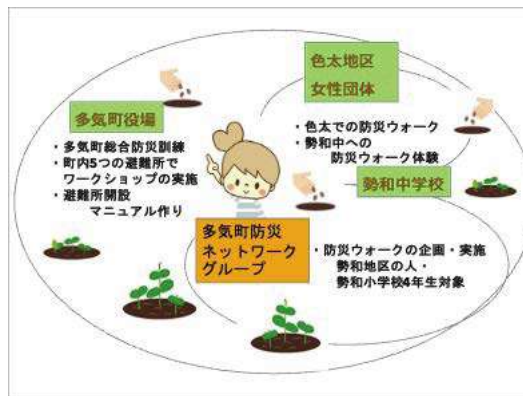
2025年2月12日「地域 × 防災 助かった命を守るために」

1部「地域の誰も取り残さないために」、2部「必要な人に支援を届けるために」と題し、講師に田村太郎氏をお招きし、お話し頂きました。もちろん企画・集客、運営はチームで行いました。こどもと女性目線とはこどもと女性のためではないことを、学びと実践を繰り返し、私たちは自ずとわかってきています。このセミナーは、2部形式にて15時～20時という長時間のセミナーでしたが、NPO、企業、行政が「一堂に会し」学び考えました。多様な主体者による官民連携の始まりです。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



みえの防災大賞特別賞受賞

多気町防災ネットワークグループは、他団体との協働で活動することにより、活動は大きく広がり、専門性、深さ等、自分たちだけでは成し遂げられなかったであろう成果をえることができました。活動成果のイメージは右図の通りです。



地域との協働

『地域再発見防災ウォーク・色太編』

多気町色太地域の女性団体から、「地域の人に地域のいいところを見直すと同時に、防災の面でみて、危ないところなどを知ってもらえるようなイベントをしたい。イタリアのイベントで、ワインを楽しみながら地域をめぐるイベントがあるので、それになぞらえ、おいしいものを食べながら学べるようなイベントを目指したい。」との要望があり協働で実施しました。



スタート前の説明、区長の挨拶



避難所の課題クイズ



米粉団子入りの芋煮汁

学校との協働 『防災ウォーク・片野編』

勢和中学3年生は、1年生の時から防災をテーマに様々な学習を行ってきています。今年度は「伝える」をテーマに活動を行うとのことだったため、防災ウォークを提案、生徒が主体で運営するにあたり、授業の支援を行いました。



スタート前の説明



班で歩く様子とコース警備の中学生



ゴール後のグループでの振り返り

行政との協働 多気町総合防災訓練の企画と実施したワークショップ

多気町とは従来から協力関係にありましたが、本格的にマニュアルの整備を行うにあたり、当団体と多気町社会福祉協議会がつくった天啓の里避難所開設マニュアルをたたき台に各避難所の開設マニュアルを改変したいこと、今年度はそれを使っの総合防災訓練を行いたいことの申し入れがありました。当団体としては全面協力。まずは多気町の担当者と共に、天啓の里のマニュアルを、指定避難所である全小学校でも使えるように改訂し、必要な物資を検討しました。総合防災訓練に向けては、開設訓練の後にワークショップを行うことを決定。ワークショップの設計と運営を担当し、400人を超える住民が参加しました。



多気町初の夜間総合防災訓練



ワークショップの様子

7. 今後にむけて

こどもと女性目線で誰ひとり取り残さない災害対応

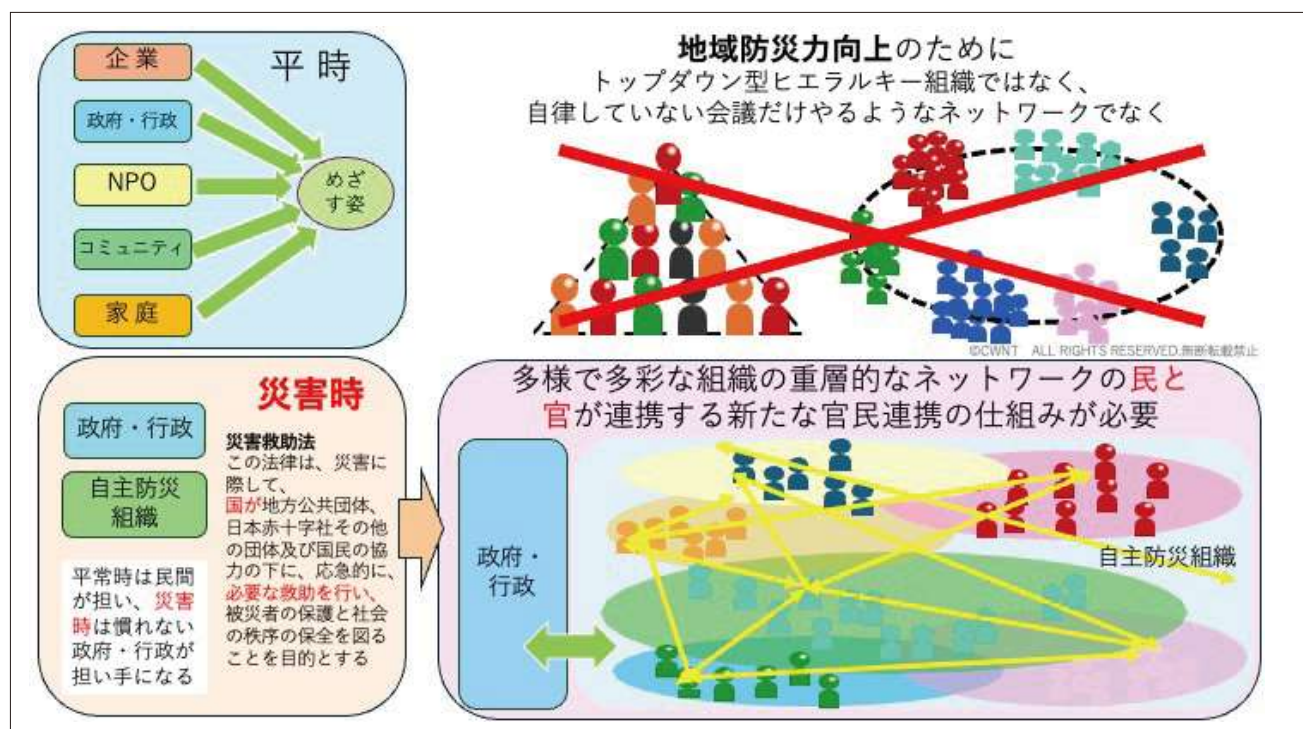
地域防災力を高めていくことが緊要ですが、日本の地域はまだまだ男性中心の社会です。その地域において、男性目線だけでなく、こどもと女性目線を加えることで、女性防災リーダーたちが誰一人取り残さない災害対応を目指しています。自ら学び、さらに地域を超えて学び合い・連携を進め、その心強さを実感し、確かな一歩を踏み出し、未来への扉を切り拓こうとしています。



これまでのように、災害発災後は、政府・行政は限界があるも被災者支援をおこない、自主防災組織等に避難所運営などを住民の自主運営に任せるのではなく、もっと多様で多彩なNPO等が育ち、自主防災組織等と連携し官民連携の新しい仕組みづくりに向かっていくことが必要であると考えます。

本プロジェクトの女性防災リーダー育成事業修了生は、ひとり一人の強みや得意なこと、経験を活かし、地域でのその新たな仕組みづくりに果敢に向かっています。

民間組織としてヒエラルキー的な組織をつくるのではなく、表面的なネットワーク組織をつくるのではなく、自律して機敏に柔軟に動ける組織が重層的に、ゆるやかに連携できるネットワークをつくり、いざというときに動けるネットワークづくりを目指します。



女性防災リーダー育成事業の修了生は、防災関係の委員長、副委員長等に就任するだけでなく、日頃から地域で活動している女性が提言力を高め、さらに実践を繰り返し、エンパワメントしていきます。

このことにより、日本の地域防災力が向上していくのではないのでしょうか。

2025年2月28日
一般社団法人こども女性ネット東海
執行理事 藤岡喜美子

あとがき

本気の力！日頃よりこどもと女性目線で誰もが「たすかる」活動を、女性防災リーダー育成事業として、2023年1月の「キックオフフォーラム」から2025年2月の「こどもと女性目線の地域防災グランプリ」まで、養成講座や東日本大震災や熊本地震の大規模被災地の視察、ステップアップ研修等プロジェクトが進み回重なる毎に成長する受講生の姿を見てきました。

そして、このプロジェクトができたのは本当にたくさんのつながりと協力があったからだと改めて感謝をしております。

さあ、その恩を返すのはこれからです。私たちは地域防災に、男性だけでなく、こどもと女性の目線を加え、地域コミュニティの再構築に向けて CWNT としても継続して活動してまいります。どうかこれからも私たちの進化を見ていてください。



一般社団法人こども女性ネット東海
代表理事 富田正美



執筆・構成
編集・デザイン
データ収集 / アンケート集計

発行日
発行

藤岡喜美子
伊藤あゆみ
和実圭美、寺部直子、戸野憲一
樽見千春、渡辺愛美
2025年2月28日
一般社団法人こども女性ネット東海
〒462-9819 愛知県名古屋市北区平安 1-9-22
TEL 052-919-0200 FAX 052-919-0220
URL <https://cwnt.jp>



※本書は休眠預金の助成を受けて作成しました。
指定活用団体 一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
資金分配団体 公益財団法人 地域創造基金さなぶり



一般社団法人 こども女性ネット東海

発行： 一般社団法人こども女性ネット東海
〒462-0819 愛知県名古屋市北区平安1丁目9番22号
TEL052-919-0200 / FAX052-919-0220

2025年2月28日